

変化に対応できる経営を目指して

北陸グラビア協同組合
理事長 賀谷真尚



この巻頭言を書いている現在、トランプ大統領の関税政策が実行されようとしており、連日報道が騒がしくなっています。世界各国でも混乱が生じており、国内では特に自動車、鉄鋼、機械や輸出ウエイトの高い企業が右往左往、あるいは経営戦略の見直しを迫られています。

今後どのようなようになってゆくのか心配でもあり、興味深いところでもあります。それらは日本の経済を引っ張る企業が多く、そのために業績が落ちたりすると、裾野の広い企業群なので、そのサプライチェーンで働く人達の賃金にも影響するでしょうし、全般的に消費が停滞あるいは広がらず、我々の業界にも影響するかもしれません。せっきくの賃金上昇ムードにある国内ですが、水を差すようなことになれば良いかと思います。

常に世の中は変化しており、特に近年はウクライナとロシア、中東でのイスラエルとパレスチナの戦争、ミャンマー、アフリカでの紛争、他の地域での小競り合いが頻発しており、またアメリカをはじめヨーロッパ、南米での政治的变化もあり、世界は混乱しているのではないのでしょうか。

我々は戦後民主主義で育てられた世代で、民主主義は絶対でさらに発展していくものだと思っていましたが、民主主義の崩壊、秩序の崩壊、連なる自由貿易の崩壊と、このところ民主主義の常識は、常識ではなくなっていると感じて危惧しております。毎日なにかと違う変化があり、世の中に明確さを求める人の心の中の不透明さは、より深くなっているように思います。

政治とは社会における安定化を図ることです。乱気流の中、今、日本国の現首相はその手腕が問われます。

30 数年前（バブル崩壊後）、その頃も常に先行きは不透明と思っていましたが、私は「先が読めない」と前会長（父）に愚痴を言ったところ、「何を言っているのだ、我々皆、戦後の焦土の中から這い上がってきた」と言われ、返す言葉がなかったことを思い出します。

どんな変化が訪れようが、経営者には責任があります。どんな状況においてもそれに対応しなければならない。常に新しい方針、改革、改善を行い、どんよりと時は移ろうともそれに身を任せるのではなく、変化に対応できる経営を目指したいと思っています。

GP JAPAN

全グラ情報

2025 年 6 月号 No.295 全国グラビア協同組合連合会

今月の表紙



写真上段：関東グラビア協組の吉原宗彦理事長、総会の様子、中段：関西グラビア協組総会の様子、高桑真樹理事長、奥田拓己副理事長、下段：関東グラビア協組青年部春季研修会での様子。詳細は本文 4～20 頁参照

CONTENTS

巻頭言 変化に対応できる経営を目指して ①

北陸グラビア協同組合 理事長 賀谷真尚

全グラ ④

全国グラビア協同組合連合会：理事会を開催

組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合：第55回通常総会・理事会、

新副理事長に信和産業の村野 剛氏、新専務理事に下田幸二氏が就任 ⑥

関西グラビア協同組合：第55期通常総会開催報告 ⑫

関東グラビア協同組合青年部：2025年春季研修会「ミヤコシ工場見学」報告 … ⑮

報告者：大日精化工業(株) 小松洋介

官公庁Information

7月1日～7日は全国安全週間 ⑮

厚生労働省、中央労働災害防止協会

価格転嫁・取引適正化に関する今後の取組について（要請） ⑳

経済産業省

企業クローズアップ

マレーシア トラベルレポート ㉔

三洋グラビア(株) 原 卓実

New FX3、FXIJ、精密ロールの3事業、創業者の重田龍男氏から引き継ぐ ㉖

(株)シンク・ラボラトリー

Data Watch 2025年2月 30

紙・プラスチック・ゴム製品統計月報に見る包装印刷 2025年3月 ... 36

酒は永遠の友 vol.5 田口 薫 40

昨今の経済情勢の変化などの影響により納税が困難な方には猶予制度があります... 42
国税庁

中小企業組合等新戦略支援事業を利用してみませんか 44
東京都中小企業団体中央会

GP 認定制度申請についてのお願い 48

Information

軟衛協、7月18日に2025年度第1回軟衛協・技術セミナーを開催、50周年記念キャラクター「なんなん」を初公開 23

GPJAPANは全国グラビア協同組合連合会が発行する機関誌です。年間購読料は送料込みで15,000円＋税です。

購読および広告出稿を希望される方は、**全国グラビア協同組合連合会**まで。
e-mail : zenkoku-grv@jfpi.or.jp



発行：2025年6月10日
発行人：田口 薫（全国グラビア協同組合連合会会長）
発行所：全国グラビア協同組合連合会
〒130-0002 東京都墨田区業平1-21-9
あさひ墨田ビル
TEL.03-3623-4046、FAX.03-3622-1814
編集スタッフ：袖山高明（全国グラビア協同組合連合会専務理事）
下田幸二（同事務局顧問）、渡邊富美子（同事務局）、
酒井由香（同）
編集協力：(株)加工技術研究会
印刷：(株)DI Palette

© 全国グラビア協同組合連合会 2025

落丁・乱丁はお取り替えます。GPJAPANの無断複写・複製・転写・転機は、著作権法で認められているケースを除き、禁止されています。また、磁気・光磁気媒体等への記録することは禁止します。

全国グラビア協同組合連合会

理事会を開催

全国グラビア協同組合連合会（田口 薫会長、大日本パッケージ㈱）は、2025 年 4 月 24 日（木）午後 1 時～3 時 10 分まで、東京・第一ホテル両国「楓 I」において理事会を開催した。当日は理事 18 名、顧問 3 名の出席のもと、田口会長が議長を務め、袖山専務理事の司会進行で下記の議題について議論した。



田口 薫会長

冒頭の田口 薫会長からの、「海外に比べ、我々軟包装業界の利益率低は過ぎる。海外メーカーの機械装置を設置してもメーカー保証期間内にコストを回収できない。適正利益を確保し、サステナブルな業界にしていく必要がある」という挨拶に続き、議事に入った。

単組の近況

出席理事より各単組の近況、総会開催予定日と予定議案等の報告があった。

総会について

袖山高明専務理事より、第 55 回全国グラビア協同組合連合会通常総会・理事会について、「6 月 13 日（金）午後 1 時よりホテルニューオータニにて通常総会・理事会、午後 3 時半より懇親会を開催する」との説明があった。

令和 6 年度決算

下田幸二顧問より、令和 6 年度の決算見込みについて報告があった。

特定技能制度関連

袖山専務理事より、特定技能制度利用を目的に加入会員が増加している状況や新規会員証発行の状況について報告があった。

グリーンプリンティング（GP）認定規定改定

山下雅稔理事より、6月1日付で改定される GP 工場認定規定について説明があった。今回の改定により「GP 工場を複数持っている企業は、企業単位の認定に移行できるようになった。例えば、3つの GP 工場を持っている企業は更新時に1工場にて現地審査の更新認可を受ければ、残り2工場は書類で更新となる」と説明。また、今年の GP 環境大賞等表彰式も多くの方に参加してほしいとのコメントがあった。

インキ工業会からの調査報告

袖山専務理事より、インキ工業会からの調査事項（物流問題）について報告があった。

公正取引委員会によるホテル業界等への警告等

吉原宗彦理事より、公正取引委員会がホテル業界15社に対し行った警告について、説明と注意喚起があった。また、安永研二副理事長より、シャトレーゼの下請代金支払遅延等防止法違反やフィルムメーカーの収支状況、原料調達先の減少・縮小等について説明があった。

関東グラビア協同組合セミナー等

袖山専務理事より、6月5日（木）開催の関東グラビア協組セミナーやラミネート・スリット・製袋の特定技能職種指定に向けた活動等について説明があった。



カリフォルニア州の包装材料関連法規

田口会長より、カリフォルニア州の包装材料関連法規について説明があった。

出席理事・顧問

田口 薫会長（関東グラビア協組、大日本パッケージ㈱）	浮田信也理事（東海グラビア印刷協組、大和産業㈱）
安永研二副理事長（関東グラビア協組、東包印刷㈱）	賀谷真尚理事（北陸グラビア協組、賀谷セロファン㈱）
竹下晋司副理事長（関西グラビア協組、㈱ダイコー）	織田憲三理事（北陸グラビア協組、アートパックス㈱）
若狭博徳副理事長（北海道グラビア印刷協組、㈱北海サンコー）	奥田拓己理事（関西グラビア協組、㈱北四国グラビア印刷）
杉山真一郎副理事長（東海グラビア印刷協組、富士特殊紙業㈱）	高桑真樹理事（関西グラビア協組、㈱ダイドー）
母里圭太郎副理事長（九州グラビア協組、㈱平野屋物産）	中村政晃理事（九州グラビア協組、㈱三裕商会）
大野寿之理事（北海道グラビア印刷協組、極東高分子㈱）	袖山高明専務理事（全国グラビア協同組合連合会）
山下雅稔理事（関東グラビア協組、㈱巧芸社）	都築晋平顧問（全国グラビア協同組合連合会）
吉原宗彦理事（関東グラビア協組、東京加工紙㈱）	下田幸二顧問（全国グラビア協同組合連合会）
市村清一理事（埼玉県グラビア協組、㈱グイトー）	松本 太顧問（全国グラビア協同組合連合会）
東 勇一理事（埼玉県グラビア協組、㈱トーショー）	

組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合 第 55 回通常総会・理事会

新副理事長に信和産業の村野 剛氏 新専務理事に下田幸二氏が就任

関東グラビア協同組合（吉原宗彦理事長、東京加工紙㈱）は、2025 年 5 月 15 日（木）午後 3 時より、東京・第一ホテル両国において第 55 回通常総会を開催した。当日は、組合員数 41 名中、本人出席 15 名、書面議決書・委任状出席 21 名、合計 36 名が出席、第 1 号議案から第 7 号議案について審議を行った。本人出席は、吉原宗彦理事長、田口 薫最高顧問理事（大日本パッケージ㈱）、安永研二副理事長（東包印刷㈱）、山下雅稔副理事長（㈱巧芸社）、川田雄治副理事長（トーホー加工㈱）、橋本 章理事（橋本セロファン印刷㈱）、千田 敦理事（㈱東京ポリエチレン印刷社）、小林直人理事（ハ潮化学㈱）、村野 剛理事（信和産業㈱）、諸石武士理事（日本パッケージング㈱）、福島 潤理事（㈱東和プロセス）、柴田里香理事（千代田オーク法律事務所）、佐藤裕芳監事（㈱千代田グラビヤ）、岸本一郎監事（㈱カナオカ）、下田幸二顧問。

理事長挨拶



吉原宗彦理事長

冒頭、吉原宗彦理事長が次のような挨拶を述べた。

「日本は株主総会のシーズンで各社の決算、今後の展望が発表されている。その中でパナソニックが 1 万人、日産自動車が 2 万人の人員削減をするという残念なニュースもあった。パナソニックの前身、松下電器創業者の松下幸之助は終身雇用を確立した方で、よく言われていたのは『物をつくる前に人をつくる』ということ。松下電器は人をつくる会社であると常々言われていた。こういったニュースを聞くと、人と人とのつながりが希薄になってきたと感じる。製造業においても以前に比べ、

分業化の確立や ISO 導入、作業の効率化、オートメーションの進化から横のつながりが薄くなっていると聞くと、グラビア印刷業界は版のセッティングやインキの投入、調合、機材のセッティングなど、人を介してグループで協力しないとものが作れない。我々が作るソフトパッケージは人と人との血の通った結晶が製品に表れている。“人財なくしてグラビアなし”と言えるのではないかと。アナログ的な業界であるが、苦心してものが出来ることを消費者だけではなく、お客様に知っていただきたい。日本のパッケージは世界

でも劣らない良いものを作っている。原材料値上げの話も来ているが、しっかり利益を取り、従業員に還元するなどの好循環ができるソフトパッケージ産業を築いていきたい。食の安全・安心を第一に守る我々の業界が発展しなくてはならない」

第1号議案 令和6年度決算関係書類承認の件



安永研二副理事長

司会の下田幸二顧問が議長選出に当たり村野 剛理事を指名、第1～7号議案の審議に入った。

安永研二副理事長が令和6年度の事業報告を読み上げた後、下田顧問が令和6年度財産目録、貸借対照表および損益計算書、剰余金処分案について報告を行い、岸本一郎監事が監査報告書を読み上げ、全会一致で承認された。

2024年度（令和6年度）事業報告

2024年度においては以下のような共同事業が行われた。

2024年5月16日（木）

関東グラビア協同組合総会・懇親会

・第一ホテル両国において組合員19名が参加

2024年10月2日（水）

関東グラビア協同組合セミナー

・会場61名、オンライン50名が参加

2024年10月30日（水）

日本印刷産業連合会グリーンプリンティング環境大賞等表彰式

・(株)北四国グラビア印刷がGPマーク普及大賞ゴールドプライズ、(株)巧芸社がGPマーク普及大賞、賀谷セロファン(株)がGPマーク普及準大賞を受賞

2024年11月26日（火）

グラビア研究会 第14回研究例会（関東グラビア協組協賛）

・「パッケージ印刷の未来を考えるー10年後を勝ち抜くパッケージとは？ー」をテーマにオンラインで開催

2025年1月17日（金）

全国グラビア協同組合連合会・関東グラビア協同組合・関東プラスチック印刷協同組合合同賀詞交歓会

・ホテルニューオータニにおいて組合員、賛助会員ら約185名が出席

2024年4月1日～2025年3月29日

外国人技能実習評価試験（グラビア印刷作業、出張試験）

・計65回の試験を実施

第2号議案 令和6年度における事業計画



山下雅稔副理事長

山下雅稔副理事長が令和7年度の事業方針を読み上げ、続いて下田顧問より令和7年度収支予算並びに経費の賦課および徴収方法が述べられ、無事承認された。

令和7年度事業活動骨子

令和7年度事業活動骨子は以下の通り。

- (1) 「特定技能制度」「育成就労制度」の受け入れ体制の構築と技能実習評価試験の実施体制の充実
- (2) 省エネ、省資源とプラスチック資源循環による地球環境保全への対応
- (3) 全国グラビア協同組合連合会を通して、「日印産連」、関係行政官庁との連携を強化し、経済支援策・下請適正取引・優越的地位の濫用等に迅速な対応
- (4) SDGs とカーボンニュートラル社会への貢献
 - * 「グラビア印刷（軟包装）グリーン基準」に基づく GP 制度の啓蒙と認定取得の奨励・周知活動
 - * 「規制と自主的取組のベストミックス」による VOC 排出削減へ向けての支援
 - * 地球温暖化防止のための CO₂ 排出量削減への取り組み
 - * 省エネ法への対応の取り組み
 - * 環境関連条例等への対応策の検討と規制緩和の推進
 - * 海洋プラスチックごみ問題について関連メーカーとの連携による資源循環の情報収集
- (5) 会員・賛助会員の増強
 - * 社会インフラを担う業界団体として、地位向上と当組合員並びに関連業界・団体・メーカーの事業拡大のため組合加入促進を図る
- (6) (一社) 日本印刷産業連合会への積極的な参加と、関連業界団体との連携強化
- (7) 青年部の育成と拡大
- (8) 「GPJAPAN」の内容充実と広告獲得、拡販
- (9) ホームページの運用と広報活動による情報発信
- (10) 外国人実習生制度認定団体として、技能実習評価試験の実施体制の更なる拡充
- (11) 消防法、有機溶剤中毒予防規則、安衛則改正による化学物質管理、改正大気汚染防止法、改正食品用器具及び容器包装など、関連法規、働き方改革、民法改正等の周知と遵守の推進
- (12) 「定款」変更、「組合加入規約」制定に関わる作業および周知

令和7年度事業計画

- (1) 「特定技能制度」を利用した外国人材の雇用と就労に関する情報提供と支援活動
- (2) 省エネ・節電取り組みにおける経営支援および諸環境法規（法令）の対応支援活動
- (3) 労働安全衛生と消防法の法令遵守の啓蒙と完全実施の推進
- * 危険物乙種第4類および有機溶剤取扱主任免許取得、化学物質管理者の選任の奨励とリスクアセスメント実施の啓蒙活動の展開
- (4) 優越的地位の濫用および下請法の啓蒙と周知への支援活動
- (5) SDGs とカーボンニュートラル社会への貢献
- * GP 認定制度の普及
- * グラビア印刷製品 GP マーク表示使用の促進
- * VOC 排出削減の維持と促進
- * 地球温暖化防止のための CO₂ 排出量削減への取り組み
- (6) 改正食品用器具及び容器包装の法規制、働き方改革等の法改正の周知活動
- (7) 事業継続対策の周知活動
- (8) 各単組および青年部による見学会・講習会・セミナー・分科会発表等の開催
- (9) 情報提供
- * 全国グラビア協同組合連合会の機関誌「GPJAPAN」の発行とホームページの充実により組合員・非組合員への情報提供

第3号議案 令和7年度借入金残高の最高限度額決定

第3号議案の令和7年度借入金残高の最高限度額について村野議長より述べられ、前期と同額で承認された。

第4号議案 定款変更、第5号議案 定款変更認可申請における字句の一部修正委任、第6号議案 規約設定

下田顧問より第4～6号議案に関する説明が行われ、承認された。

第7号議案 理事・監事選挙

2年の任期を終え、改めて理事13名、監事2名を指名推薦により承認、理事・監事の就任の承認を得て、総会が終了した。

理事会・懇親会

午後3時55分からは同会場において理事会を開催した。

吉原理事長からは、「公正取引委員会の勧告、警告は連日報道されているように感じる。大きいところでは都内15の大手ホテルや、包材関係ではシャトレーゼなど。そして、食



品流通の商慣行 3 分の 1 ルールが独禁法違反のおそれがあるという見解が出された。また、特売日の前日に小売業者の発注数量が確定し、翌日には納品しなくてはならないという、短期間の納品を求め食品メーカー側のコスト負担が増えたにも関わらず、納品価格を一方的に据え置くことも独禁法にあたるおそれがあるという見解を出している。今まで我々の業界では暗黙の了解で慣例化していたことが独禁法に抵触するのではないかとの見解が示され、下請業者にもこうした行いに対して改善できる道筋を作ってくれていると感じる。お客様に適正に我々の製品を納品する観点からも公取にはしっかりと現状を見ていただきたい。特定技能等、様々な問題があるが、皆さんの活発な意見をお願いしたい」 と挨拶があった。

下田顧問の進行で議事に移り、役員改選について、第 55 期の体制が下記のように決定した（敬称略、太字は新任）。

<理事長>

吉原宗彦（東京加工紙株）

<副理事長>

安永研二（東包印刷株）

川田雄治（トーホー加工株）

村野 剛（信和産業株）

<専務理事>

下田幸二

<最高顧問理事>

田口 薫（大日本パッケージ株）

<理事>

山下雅稔（株巧芸社）

橋本 章（橋本セロファン印刷株）

千田 敦（株東京ポリエチレン印刷社）

小林直人（八潮化学株）

諸石武士（日本パッケージング株）

福島 潤（株東和プロセス）

柴田里香（千代田オーク法律事務所）

<監事>

佐藤裕芳（株千代田グラビヤ）

岸本一郎（株カナオカ）



続いて、2025 年度日印産連表彰「印刷功労賞」「印刷振興賞」候補者推薦について、全国グラビア協同組合連合会の田口 薫会長に推薦者を一任することが承認された。また、下田専務理事から、6 月 13 日（金）にホテルニューオータニで開催予定の全グラ総会、6 月 5 日（木）の関東グラビア協組セミナー、6 月 26 日（木）のグラビア向け労働安全衛生セミナー開催等について説明が行われた。

その他、吉原理事長からは特定技能制度関連、ラミ・スリット・製袋業界の近況について説明があった。また、新たに顧問に就任した松本 太氏より、「現在は特定技能制度の管理関係の業務に携わっています。今後ともよろしくお願いいたします」との挨拶や、安永副理事長からフィルムメーカー等の現状や、田口 薫最高顧問理事からコンバーターのこれからの働き方等について報告が行われた。

すべての決議を終えた後、午後 5 時より、同ホテル「東天紅」に場所を移し、川田雄治副理事長の乾杯の発声で懇親会がスタート。テーブルを囲んでの情報交換や歓談に花を咲かせる中、村野新副理事長の中締めで会を締めくくった。



田口 薫最高顧問理事



松本 太顧問

組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合

第 55 期通常総会開催報告

関西グラビア協同組合（竹下晋司理事長、(株)ダイコー）は、2025 年 5 月 16 日（金）午後 6 時から ANA クラウンプラザホテル大阪（平安の間）において、組合員・賛助会員 80 名参加のもと、第 55 期通常総会を開催しました。



奥田拓己副理事長

総会は、事務局の司会によって進行し、膝の手術による入院で欠席となった竹下理事長に代わり**奥田拓己副理事長**（(株)北四国グラビア印刷）が開会に際し、「竹下理事長は 10 年間理事長職を務められ、本来ならこの場に立っておられたはずですが、名医による手術を受けるまたとない機会だということで、あえて一昨日に手術をされました。そのため本日は残念ながら欠席ですが、昨日、電話でお話ししましたところ、大変お元気で、すでにリハビリを始めていらっしゃるとのことでした。理事長がこの場におられないことに寂しさを感じつつも、私たちはその思いを胸に刻み、しっかりとバトンを受け取り、この会を進行してまいります。

さて、皆様も日頃から感じておられることと思いますが、昨今、人手不足や原材料・エネルギーの高騰、物流、人件費の上昇など、厳しい経済環境の中で、お客様の多様なニーズにも応えなければなりません。そうした状況の中、関西グラビアは『相互扶助と技術研鑽』を旗印に掲げ、教育事業や青年部のネットワーク強化、環境対応に取り組み、ゆるぎない歩みを続けてまいりました。私も東京で理事会に参加しておりますが、竹下理事長は全国の単組の皆様と連携を図り、良好な関係を築かれております。また、私どものグラビア技術研修会は全国的にも注目を集めるようになっております。直近の全グラ理事会では、田口 薫会長より、『これからの業界経営には勇気が必要です。価格転嫁など適正な対価を求めることを恐れず、業界の価値を正しく訴え、堂々と主張する覚悟を持つべきです』とのお言葉がありました。さらに、『過度な忖度は自らの首を絞める自殺行為に他なりません』と、強い言葉で警笛を鳴らされました。私たちは、日本の生活インフラを支える存在として、食品や日用品の安全・安心を守るという誇りを、改めて胸に刻みたいと思います。全国の理事会では、外国人技能実習制度や特定技能に関する話題が多く取り上げられています。直近では、皆様にアンケートを実施予定です。関東の皆様が熱心にロビー活動を行っ

て下さっていますので、アンケートが届いた際には、ぜひ迅速に回答し、提出をお願い致します。さらに、竹下理事長からの伝言として、今年9月に青年部全国大会が開催されます。青年部の皆さんは全員参加し、関西ならではのおもてなしの心で、全国から集まる青年部の皆様と親睦を深めて下さいとのことです。そしてもう1つ、外国人特定技能者の受け入れに伴い、組合へ加入する企業が増えております。しかし、現時点では組合未加入の企業が3分の2を占めているのが実態です。この状況を危機と捉えるのではなく、組合の存在価値を再構築するチャンスだと捉え、業界の底上げを図ることこそが、今の時代に経営を任されている私たちの使命ではないでしょうか。結びに、竹下理事長の一日も早いご回復をお祈り申し上げるとともに、皆様お一人おひとりの力が、この業界の未来を形作ることを改めてお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞ宜しくお願い致します」と挨拶されました。

続いて、司会より本日の通常総会は本人出席、書面議決書出席の合計出席人数が定足数を満たしたことが告げられ、奥田副理事長が議長に選任され議案審議に入りました。

【決議事項】

- 第1号議案 令和6年度 事業報告書の承認の件
- 第2号議案 令和6年度 財産目録、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案の承認の件
- 第3号議案 令和7年度 事業計画案及び同収支予算案の承認の件
- 第4号議案 令和7年度 経費の賦課及び徴収方法決定の件
- 第5号議案 定款一部変更及び加入規約制定の件
- 第6号議案 任期満了に伴う役員改選の件

第1号議案から第6号議案いずれも書面による議決権行使を含め、満場異議なく可決され、すべての審議を終了し午後6時40分に第55期通常総会を閉会しました。



吉田俊夫監事（新生紙化工業㈱）による監査報告

総会に引き続き、同ホテルの別会場（万葉西の間）にて懇親会を開催しました。堀川孟青年部副部長（日新シール工業㈱）の司会進行によりスタートし、役員改選により理事長に就任した高桑真樹理事長（㈱ダイドー）が開宴にあたり、「理事長という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いです。と、言うべきところですが、内心では自身の会社のこととで精一杯の状況です。しかし、私も昨年還暦を迎え、60歳になりました。これまで育て見守っていただいた業界に感謝の気持ちを持って、利他の精神を持ち、微力ながらもお役に立てるのであれば、という思いでこの役を務める決意を致しました。1期2年になりますが、ご指導ご鞭撻のほどを宜しくお願い申し上げます。また、10年間という長きに

わたり関西グラビアを牽引し、導いてくださった竹下前理事長に心より感謝申し上げます。先ほども奥田副理事よりご報告がありましたように、膝の手術のため本日はご欠席ですが、改めて深く御礼申し上げます。

コロナ禍以降の社会情勢は大きく変動し、特にトランプ大統領の就任後は先行きが不透明で、今後の展開を予測するのが難しい状況にあります。業界としても、原材料費、光熱費、配送費、倉庫費、人件費の高騰に伴う値上げ問題、人口減少による人材不足、さらには環境対応への社会的要請の高まりなど、多くの課題に直面しています。我々を取り巻く環境はこれまでにないスピードで変化しており、問題は山積しています。これらの問題は、一社単独で解決することが難しいものばかりです。だからこそ、今、業界としての団結が求められています。過度な競争に陥るのではなく、競争と協調のバランスを見極めながら、持続可能な成長と革新を実現していくために、お互いの力を高め合うことが必要です。今こそ、関西グラビアが業界を変革し、新たな未来へ向かうべきタイミングだと考えています。変化を待つのではなく、自らが変化を起こす立場へ。守りに入るのではなく、攻めの姿勢で未来を描く覚悟があるかどうかの選択が、5年後、10年後のグラビア業界の未来を大きく左右すると確信しています。

私はグイグイと引っ張るタイプではありません。本日ここにお集まりいただいた皆様の温かいご支援とご協力がなければ成り立っていきません。皆様とともに作り上げていく、皆様のための関西グラビアでありたいと思っています。ベテランの方々も、中堅の方々も、若手の方々も、立場を越えて何でも言い合える風通しの良い関係を築きながら、アットホームな雰囲気の中にも、ひときわ輝くものを持った組織へと成長させていきたい。『小粒でもピリリと辛い』関西グラビアを、皆様とともに未来へ向かって築いていきたいと思えます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。最後になりましたが、時代がどれほど変わろうとも、グラビア印刷は『人の思いを形にし、心を包み、開く力を持った技術』であることに変わりはありません。目に見えない品質、手触り、色彩など、これまで追求し続けてきたこの業界の価値を次世代へと受け継いでいくことが私たちの使命です。今後とも皆様のお知恵と力、技術と勇気をお借りしながら、理事長として誠心誠意務めてまいります。そして皆様とともに新しい時代を切り拓いてまいりましょう。何卒宜しくお願い申し上げます。



高桑真樹理事長



退任する中西理事、菅野理事に感謝を込めて



乾杯の発声は DIC グラフィックスの溝口珠雄氏



加入挨拶をする丸善工業の竹内 元氏（左）と三幸化工の宮武秀明氏



願い申し上げます」と挨拶しました。その後、新たに就任した役員が登壇し、理事長の紹介のもと一言ずつ挨拶いただきました。また、永きに亘り役員を務められ本総会を持って退任する**中西理事と菅野理事**に感謝の気持ちを込めて花束を贈呈しました。

賛助会員を代表して DIC グラフィックス(株) 関西リキッドカラー第一営業グループ グループマネージャー **溝口珠雄氏**による乾杯の発声により宴会が開催されました。途中、新たに加入された丸善工業(株) 営業推進本部 総務次長 **竹内 元氏**と三幸化工(株) 東京営業部 課長 **宮武秀明氏**から加入挨拶をいただき、2時間の食事と歓談の輪が繰り広げられました。

最後に役員が登壇し、代表して**木田守彦理事**（昭和グラビア印刷(株)）の中締め挨拶の後、指名により登壇した**吉田会員**による関西グラビア協同組合恒例の万歳三唱で午後8時40分すべてを終了しました。



吉田会員による万歳三唱



木田守彦理事による中締め

令和7年度 事業計画

自 令和7年4月1日 至 令和8年3月31日

グラビア印刷業界はこれまで包装、食品、産業、工業用途など多岐にわたる分野で日本のものづくりを支えてまいりました。しかし、昨今の市場環境の変化、原材料価格、光熱費他の高騰、環境対応への社会的要請の高まりなど我々を取り巻く状況はかつてないスピードで変化しております。

このような時代の中で以下の3つを柱に今後の事業計画案を策定致しました。

第一に「環境対応技術の推進」

グリーンプリンティングやモノマテリアル化の推進、リサイクル可能な素材への対応を進め、業界全体の環境価値を高めてまいります。

第二に「人材育成と技術継承、外国人労働者雇用」

若い世代の人材確保と現場で培われた高度な技術とノウハウの継承に向けた取り組みを強化すると共に外国人労働者雇用の推進にも力を入れてまいります。

第三に「業界の魅力発信と市場拡大」

グラビア印刷の強みや可能性を広く発信し新たな市場の開拓を図ります。

この事業計画は会員企業の皆様、賛助会員の皆様、そして関連業界の皆様と共に実行に移して行くものであります。今後とも変わらぬご支援とご協力を受け賜りますようお願い申し上げます。

基本方針

環境問題への取り組み

VOC 排出抑制自主行動計画推進策及び処理装置の紹介

グリーンプリンティング認定工場の取得推進及び支援事業

脱炭素、再生可能エネルギーの普及など環境対策情報収集・セミナーの開催

広報活動の取り組み

業界情報誌「GP JAPAN」の提供

組合の広報活動として HP の充実及びメールマガジンを通しての速やかな情報発信の確立

青年部会員連携のため SNS の活用

教育情報事業の取り組み

第 19 回グラビア技術研修会の開催（青年部を主体とした勉強会を年 1 回開催する）

経営者及び後継者を主とした第 19 回経営セミナーの開催

全国青年部との連携を取るため青年部全国大会（勉強会、懇親会等）の開催

親睦活動の取り組み

福利厚生事業（総会、年末情報交換会、新年賀詞交歓会、親睦会等）の開催

共同事業の取り組み

共同購入事業（PL、火災共済等各種保険、副資材）の検討及び推進

外国人特定技能制度の窓口

新制度外国人育成就労制度への対応

snapshot



組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合青年部

2025年春季研修会「ミヤコシ工場見学」報告

報告者：大日精化工業(株) 小松洋介

2025年4月11日（金）、関東グラビア協同組合青年部（原 卓実部長、三洋グラビア(株)）は、午後12時30分頃より秋田県・(株)宮腰デジタルシステムズ様にて、2025年春季研修会水性フレキソ印刷機、EB オフセット印刷機の見学会を開催しました。

冒頭、(株)ミヤコシ執行役員の照井様よりお言葉をいただき、その後、関東グラビア協同組合青年部の原部長が挨拶、ミヤコシの内田顧問様より会社および印刷機の説明をしていただきました。



まず、ミヤコシ様はアナログとデジタルの両分野で高性能な印刷機および加工機を製造する印刷機メーカーであり、“軟包装新時代三本の矢”と称し「水性インクジェットプリンタ」「CI型水性フレキソ印刷機」「EB オフセット印刷機」の3つの印刷方式を展開しています。

まず、CI型水性フレキソ印刷機「MCI1000-W」の説明をしていただきました。同機は国内初の国産8色CI型フレキソ印刷機です。搭載機能の特徴として、一番の目玉は版ガラム防止機能を付与していることです。この機能は各ユニットに版胴加湿装置を装備し、水性フレキソの課題である、版ガラムの発生を抑制する機能です。その他にも、CIドラム温度コントロール、コロナ処理・紙粉除去、各版胴単独駆動コントロール、CIドラム自動クリーナー機能などを搭載しております。実機印刷では900mm幅の原反を使用し、デモ印刷を行っていただきました。

【印刷条件】

- ・印刷基材：OPP#18
- ・印刷スピード：150m/分

印刷時には、ユニット部分を開いてもらうことで上記した版胴加湿装置の稼働も確認することができ、また、見当合わせなどは刷り出しからすぐに行うことができ、CI型フレキソ印刷機の性能を発揮していました。

次に、EB オフセット印刷機「MLP18-EB」「MHL18-EB」について説明していただきまし



た。オフセットの特徴としては、製版工程がグラビアに比べ簡素化されています。CTPプレートセッターの普及により自社で製版を行うことができ、オペレーションもほぼ自動で簡単に操作が可能で、短時間（約2分×5版＝10分）で製版工程を行うことができます。プレートコストも安く（1,500～2,000円/m²）、基本的には使い捨てで置版スペースは不要。今回、ミヤコシ様で使用されているプレートは無処理版を使用することにより、現像工程を印刷機上で行うものです。そして、EBオフセットは無溶剤・VOCフリーという点も優れたメリットとして挙げられます。すでに、ラミネートされた基材に表刷り印刷することを提唱しており、これにより受注から納品までの時間を短縮することができます。今回のデモでは、MHL13-EBというプロトタイプ機で、上記の上市モデルより幅の狭い印刷機にてデモ印刷を行っていただきました。

【印刷条件】

- ・印刷基材：OPP#30 / ノンソルラミネート / VM-CPP#30
- ・印刷スピード：40m/分

見学者はグラビアとオフセットの印刷機構の違いやインキ、版の違いなどに興味を持っていました。

印刷デモの後には、部品加工、組立現場など普段見ることのできない工場内ツアーも行っていたいただき、実際に加工しているところを見学させていただきました。MCI1000-Wの

要となるセンタードラムを加工する工作機械も見学でき、改めてミヤコシ様の強みとして、設計から部品製造を独自で生産することによって、国内初のCI型フレキソ印刷機を製造している経緯がうかがえました。また、組立現場では男性だけでなく、女性の方々も作業されており、職場の働きやすさについても見ることができました。

最後に、インクジェットプリンター「MJP ADVANCED 30X / 45X for FILM」についてミヤコシの中村様に説明していただきました。同デモ機は秋田工場になく、千葉にある八千代事業所に行けば見ることができるとのことでした。こちらは昨年6月にリリースされた最新機種となっており、印刷スピード 80m/分（従来機 50m/分）、拡縮補正機能（フィルム伸縮によるカラーと白の縦横のズレを補正する機能）を搭載しています。デジタル印刷ならではのデザイン可変性に加え、20%以下の網点、補色関係にある色同士の掛け合わせ文字再現、グラデーションを活かした幅広い印刷が可能なことも特色です。今後の小ロット多品種化に期待が持てる機種とのことでした。

今回の見学会の機会をいただき、グラビア印刷とは違う印刷に実際触れることで、それぞれの特徴を勉強することができました。同時にこれからも様々な新しい技術が出てくる中で、軟包装業界がどのような方向に進んでいくかについて考える良い機会にも感じました。

最後に、快く工場の隅々までお見せいただいたミヤコシの皆様、遠路今回の研修会にご参加いただきました会員の皆様、誠にありがとうございました。



厚生労働省、中央労働災害防止協会

7月1日～7日は全国安全週間

「人命尊重」を基本理念に、産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、安全意識の高揚と安全活動の定着を目的とした2025年度の「全国安全週間」が「多様な仲間と 築く安全 未来の職場」をスローガンに、2025年7月1日（火）～7日（月）までの1週間、全国で実施されます。

令和6年の労働災害は、死亡災害は集計開始以降最少となった前年を下回る見込みであるものの、休業4日以上之死傷災害は前年同期よりも増加しており、特に高年齢労働者の増加等を背景として、転倒や腰痛といった労働者の作業行動に起因する死傷災害が増加し続けている状況です。また、死亡災害については、墜落・転落などによる災害が依然として後を絶たない状況にあります。

職場における労働災害防止活動の大切さを再確認し、積極的に安全活動に取り組みましょう。

実施期間

準備期間：6月1日（日）～30日（月） 本週間：7月1日（火）～7日（月）

実施事項

安全文化を醸成するため、各事業場では、全国安全週間および準備期間を利用し、次の事項を実施しましょう。また、取り組みをより効果的にするために、中央労働災害防止協会の「令和7年度全国安全週間実施要綱」（<https://www.jisha.or.jp/campaign/anzen/youkou.html>）を参考に継続的に実施をしましょう。

- （1）安全大会等での経営トップによる安全への所信表明を通じた関係者の意思の統一および安全意識の高揚
- （2）安全パトロールによる職場の総点検の実施
- （3）安全旗の掲揚、標語の掲示、講演会等の開催、安全関係資料の配布等の他、ホームページ等を通じた自社の安全活動等の社会への発信
- （4）労働者の家族への職場の安全に関する文書の送付、職場見学等の実施による家族への協力の呼びかけ
- （5）緊急時の措置に係る必要な訓練の実施
- （6）「安全の日」の設定の他、準備期間および全国安全週間にふさわしい行事の実施

経済産業省

価格転嫁・取引適正化に関する今後の取組について(要請)

経済産業省より、経済産業大臣名で業界団体あてに標題の要請文（2025 年 4 月 22 日付）を受領しました。持続的な賃上げを実現し、中小企業・小規模事業者にもその恩恵が行き渡るよう、賃上げ原資確保の重要な要素である価格転嫁・取引適正化を進めることは必要不可欠です。また、適切な価格転嫁により、サプライチェーン全体でコスト増加分を公平に分担し、利益を共有することは事業の成長への意欲を促し、競争力の強化にも資するものです。経営者・代表者、調達担当者等の方々には本要請の趣旨を周知・徹底いただくよう、よろしくお願いいたします。

下請法〔下請代金支払遅延等防止法（昭和 31 年法律第 120 号）〕違反がないか、業界全体での自主点検と、違反がある場合の迅速な不利益の補償や、「自発的申出制度」の活用

下請法に違反するような不適正な取引がないか、業界全体で自主点検を行うこと。また、違反があった場合には、受注企業が被った不利益の迅速な回復を行うなどの改善措置を講じること。その際、下請法違反行為を行っていた発注企業が、公正取引委員会または中小企業庁に対して違反行為を自発的に申し出る「自発的申出制度」も活用すること。

下請法の改正に関する検討状況の周知や、成立・施行前からの自主的な対応

今国会に提出された下請法の改正案について、法案の成立・施行前から、各業界内部でよく周知するとともに、新たに規制の対象となる事項について、各業界・企業において自主的な対応を行うこと。

「無償サービスの提供要請」「手数料負担の押し付け」など、受注者の利益を損ね、価格転嫁を阻害する商慣習の見直し

受注者の利益を損ね、価格転嫁を阻害する商慣習が、業界全体で一掃されるよう、改善すべき商慣習の見直しを行うとともに、警備やビルメンテナンス、情報システムや物流等の間接部門でも、受注先のコスト上昇等を踏まえた適正な契約が行われているか、改めて確認すること。

サプライチェーンの先まで価格転嫁が可能となるような価格決定および価格転嫁に係る周知啓発

最終製品やサービスを消費者に提供する、いわば「サプライチェーンの頂点」となる企業や業界においては、サプライチェーンの先まで価格転嫁を浸透させるよう、直接の取引

先のさらに先まで、価格転嫁が可能となるような価格決定を行うこと。

また、さらに先への価格転嫁の予算確保も含め、価格転嫁の方針が、サプライチェーンの隅々まで伝わるよう、例えば取引階層の深いサプライヤーも参加するセミナーの実施などを通じて広く情報発信を行うこと。

加えて、受注側および発注側ともに適正な取引に向けて協議の場を持つよう啓発するなど、業界内の意識を喚起し、必要に応じて「よろず支援拠点」といった経営相談窓口などの積極的な利用を促すこと。

自主行動計画の策定や遵守、商慣習の見直し・パートナーシップ構築宣言を行う旨を盛り込むなどの改善

自主行動計画を策定した業界におかれては、その遵守を業界内で呼びかけること。また、既述のような価格転嫁を阻害する商慣習の一掃および「パートナーシップ構築宣言」の実施に向けて、引き続き、自主行動計画に基づく取組の充実や改善を図ること。なお、未策定の業界におかれては、自主行動計画の策定について検討を行うこと。

「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針（労務費指針）」の遵守徹底

労務費指針の遵守を徹底し、業界内でも改めて呼びかけること。

i Information

軟衛協、7月18日に2025年度第1回軟衛協・技術セミナーを開催

軟包装衛生協議会（軟衛協、TEL：03-3548-4111、FAX：03-3548-2939、<https://www.naneikyo.com/>）は、2025年7月18日（金）午後2時～4時まで、第1回軟衛協・技術セミナーをZoomにて開催する。参加費は3,000円／1名（税込）。申込方法は、セミナー名、社名、住所、電話、FAX、参加希望者の氏名と所属・役職、メールアドレスを記載して事務局（jimukyoku@naneikyo.com）にメールを送信、または軟衛協ホームページより申込書をダウンロードしてFAXにて申し込む。プログラムは以下の通り。

ポジティブリスト制度及び関連規制の現状について

講師：消費者庁 食品衛生基準審査課

器具・容器包装基準審査室 専門官 荒川裕司氏
サーキュラーエコノミーの動向と素材によるソリューション

講師：三井化学(株) グリーンケミカル事業推進室

リサイクルブループリダー 池永裕一氏

軟衛協、50周年記念キャラクター「なんなん」を初公開

軟包装衛生協議会は、設立50周年を記念して、2025年5月14日（水）に開催された記念パーティにおいて、同協議会のキャラクター「なんなん」を初公開した。



マレーシア トラベルレポート

三洋グラビア(株) 原 卓実

「日本の幸福度は 22 カ国中最下位、若者は世界的に低水準」——。

5 月 1 日付の日本経済新聞 36 面に、そんな見出しが静かに掲載されていた。記事によれば、日本では将来への不安感が大きく、人とのつながりの希薄さが際立っており、礼拝や宗教的イベントといった定期的な交流機会の乏しさが幸福度を下げる一因であるとされていた。

一方、過去には一部のメディア媒体によって、日本経済が低迷する背景として、「他人の成功を素直に祝福できず、時に損をしてでも他人の足を引っ張ろうとする国民性が影響しているのではないか」とする分析が掲載され、大きな反響を呼んだ。

いずれも残念な現状を示唆する記事だが、私がこの現実を痛感したのは、1 カ月前にマレーシアに本社を構える SCIENTEX 社を訪問した際の経験があったからに他ならない。

SCIENTEX 社は、平成 26 年からフタムラ化学(株)と戦略パートナーシップ契約を締結しているプラスチック包装と不動産開発を主軸とする上場企業である。2 日間の短い滞在ではあったが、同社の皆様からは終始、温かいもてなしを受け、その心配りと配慮の行き届いた姿勢に深い感銘を覚えた。まさに「お・も・て・な・し」の精神を体現されていたと感じる。

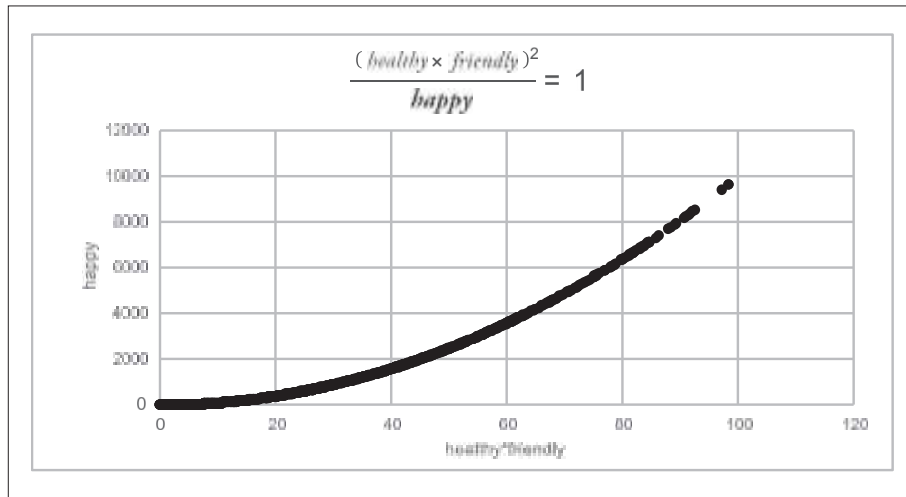
その SCIENTEX 社の至るところに掲げられていたのが、“Healthy, Friendly & Happy”というシンプルで力強い標語であった。お話を伺う中で、同社がこの言葉を企業理念として掲げ、健康的かつ親しみやすく、幸福を感じられる職場や地域社会の創出に真摯に取り組んでいることを知った。

私たちもまた、同様の価値観を抱いてはいたものの、それを明確な言葉で表現できていなかった。それゆえ、この理念との出会いは深く心に響き、帰国後すぐに社内でこの体験を共有した。

とりわけ感銘を受けたこの標語を紹介した際、社長から「これを数式で表現すると、どのようなモデルが考えられるだろうか」との問いが投げかけられた。すると、経営企画室に所属する数学に長けた社員が数日後に提案してくれたのが、以下の「加速度モデル」(次頁)である。

$$(\text{Healthy} \times \text{Friendly})^2 \div \text{Happy} = 1$$

このモデルは、「健康」と「友好性」が掛け合わさることで、幸福度が加速度的に向上するという思想を視覚的に表したものであり、非常に示唆に富んだ内容であった。(詳細についてはまた別の機会で……)



さて、近年の食品包装業界を取り巻く環境は、インバウンド需要の回復もあって堅調な生産活動が続いている。一方で、長期的には人材確保が大きな課題となっており、働く人々の幸福に真正面から向き合わなければ、将来的な人手不足の解消は困難であるという危機感を覚えている。

こうした中、一意専心にご活躍された先人の皆様の弛まない努力によって組合員各位は友好的な関係性を築き、互いに切磋琢磨しながら前進してきた。その実感をより強く得たのは、関東グラビア協同組合青年部の部長という立場を通じてであった。

業界に携わる全ての人々が、健康で生き生きと日々の仕事に向き合い、関わる人々と友好的な関係性を築き、結果として明るく豊かな社会の創出に貢献する――。

私はそのような未来を信じて、拙筆ながら本稿を締めくくりたい。



ツインタワー前から撮影したクアラルンプールの高層ビル群

New FX3、FXIJ、精密ロールの3事業 創業者の重田龍男氏から引き継ぐ

(株)シンク・ラボラトリー

世界で唯一の、軟包装印刷業界向け全自動レーザーグラビア製版システム『New FX3』のメーカーであり、世界で初めて軟包装向け水性インクジェット (IJ) 印刷機『FXIJ』が実用に足りうることを証明したメーカーでもあり、そして今日のIoT社会を支える電子部品業界向けに精密ロールを供給するメーカーであるシンク・ラボラトリーは、今年2月1日付で、約59年にわたり、斬新なアイデアとそれを具現化するバイタリティで同社を牽引してきた重田龍男氏が会長に退き、常務取締役の重田 核氏が2代目の代表取締役社長に就任した。軟包装印刷市場は、国内では、少子化や人口減少、ポストコロナ禍以降鮮明となった、原材料や工場のユーティリティコストの高騰、賃金上昇、更には、食品ロス削減から誘発された包装資材の過剰発注の手控えが起き、厳しい局面を迎えている。シンク・ラボラトリーをどう舵取りしていくのか、2月27日、就任間もない核氏に取材した。

5年後に売上100億円目指す



重田 核社長

シンク・ラボラトリーの売上は、2024年10月期で59億5000万円、従業員数147人。今期は1割アップを見込む。売上構成は、New FX3を始めとする全自動レーザーグラビア製版システムおよび消耗品が8～9割、電子部品用精密ロールが1～2割。これに今期からFXIJの売上が新たにプラスされる。この3本柱で、「5年後に100億円を目指す」。そのための組織体制を再構築した。

海外売上比率を伸ばす

主力の全自動レーザーグラビア製版システムはこれまで100セット以上の実績があり、そのうち海外は約3割を占める。ただし、電子彫刻機や古い製版システムからの置き換えや更新需要は期待できるが、国内のグラビア製版システムそのもののパイが増えることは望めないため、海外売上比率を伸ばす。そのため、これまで以上に関連する海外の展示会に出展し、PRに努める。

直近、4月15日から中国・深圳で開催されるChinaplas2025に出展する。前年、中国のグラビア製版会社、INHON LaserとChinaplasの上海展に共同出展したのに続き、2回目となる。「近くに、顧客である東莞運城制版があり、また、引き合いをいただいているコンバーターもいるので、時間を見て訪問してみたい。グラビア製版ラインとIJ印

刷機をパネルや動画を使って、PR する」。

中国のグラビア製版市場については、「堅調だ。グラビア製版ラインは、昨年、上海運城制版にも納入したし、軟包装関係の印刷会社からは引き合いもあるので、これから受注が増えるかもしれない」との見通し。

また、こんな中国事情も披露する。「展示会に来日した中国の製版会社からは、鉄に代わってアルミシリンダーへの関心が高まっているようだ。中国ではこれまで、鉄製の版シリンダーを印刷会社に納品したら、使い終わっても返却されることはなかったが、最近では、返却してもらい、再度製版し直すことが行われつつある。鉄の場合、錆の発生や、重量があるためハンドリングに難があるため、アルミが注目されている」。

New FX3 については、これまでは直販のみであったが、代理店経由での販売にも力を入れる。海外展への出展には、現地パートナーを見つける狙いもある。



Constantia Flexibles で稼働する FXIJ のカスタマイズ機

来期は少なくとも今期の倍を見込む

軟包装向け水性 IJ 印刷機である FXIJ は、しばらく海外 1 台、国内 2 台という納入実績にとどまっていた。軟包装印刷を手掛ける会社でフル稼働させるためには、クリアすべき課題が多く、それらを解消するために足踏み状態にあったのも確かだ。顧客からは、とりあえず納入し、トラブルが生じたらその都度対応してはどうかとの声も聞かれたが、そこは現会長の龍男氏の慎重さが勝った。だが、カスタマイズした IJ 印刷機が、今年、国内 2 台、海外 1 台（Constantia Flexibles）の出荷が決まっている。「デジタル印刷機を購入したいというよりは、それをどう使いこなすかを含めた打ち合わせに時間をかけている。このため、標準機というよりは、カスタマイズ機が多くなっている。また、客先での検証にも

時間をかけているため、今期実績はこの3台だが、来期は少なくとも今期の倍を見込んでいる」と語る。

FXIJの販売については、以前、リース販売という話を聞いたが、現状は、買取で、別途保守契約を付ける形態。

FXIJを使っての試作や受託加工を手掛けるBMF（Business Model Factory）でも新しい動きがある。現在、対応基材幅1000mmで紙継ぎ機能のあるFXIJ type1000 FullAutoが1台あるが、これを今夏、最新型に置き換える。「BMFの受託加工は順調に伸びている。売上的にはどうこう言えないが、FXIJを使って、こんな軟包装材や袋が作れるということをお見せする広告効果は絶大だ。食品以外の用途向け製品の試作も進んでいる」。BMFのスタッフは、画像処理が1名、FXIJオペレーターが2名、その他の加工機（ラミネーター、スリッター、製袋機など）を扱えるオペレーターが2名。



今年2月に国内で稼働を開始したFXIJのカスタマイズ機

設計および組立部門を集約

本社工場とは道路を挟んだ向かいの、水性IJ用インク工場の隣に、新しい第6工場が今年2月に竣工した。敷地面積2500m²、延床面積1500m²で、これまで分散していた設計および組立部門を集約した。総勢は、機械および電気設計要員が28名、機械組み立て要員が35名。New FX3であれば同時に4ライン、FXIJであれば同時に6台を組み立てることができる。

グラビア製版の簡素化

重田会長から受け継ぐものは何か。「これまでの経緯を見ていると、グラビア製版では、クレーンやロボットを使って自



引越し最中の第6工場内部（2025年2月27日撮影）

動化したり、フィルムを使って露光描画していたのをレーザーでダイレクトに描画して製版したり、水性インクジェットで軟包装印刷を可能にしたり、今までにないものを作ってきた。日本のメーカーとして、やはり付加価値の高いものを作り続けることが、存在価値を高めることにつながるので、フィルム印刷やコンバーティングの分野をメインに、そうしたことは今後も継続していきたい」。

「drupa 2024 に出展した際に、アフリカの会社がグラビア印刷に興味を持ってくれたことがあった。しかし、グラビア製版を手掛けるにしても、近くに鉄シリンダーを作る会社、廃水処理装置の会社などのインフラが整っていなければ難しい。これからパッケージ市場が伸びる国では、グラビア印刷は非常に魅力的な印刷手法だが、版を作る工程をもっと簡素化する必要がある。グラビア印刷機とコンパクトな製版ユニットを購入すればグラビア印刷が行える、まだ具体化しているわけではないが、そうしたものを、2、3年中には考えてみたい」



第6工場の外観（2025年2月27日撮影）

<重田 核社長のプロフィール>

1989年3月、芝浦工業大学の機械工学科を卒業後、同年4月にシンク・ラボラトリーに入社。以後、サイテックス社（イスラエル）のドットジェネレーターという網点発生装置と、フィルムレス製版用のレーザー描画装置『LaserStream』のマッチングを担当。2000年頃からは、グラビアシリンダーにレーザー製版用のフォトレジストをコーティングする装置

の改良を手掛け、2002年からは常務に就任。その後、レーザーをアルゴンからサーマルタイプに切り替えたのに伴う装置の改良、3200dpiとより高解像度な描画が可能となり軟包装グラビア印刷以外の用途にも適用できる可能性が広がったことから、電子部品用のロールなど、新規用途の開拓を担当してきた。

（コンバーテック 2025年4月号より転載）